

次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会

第3回会合 議事要旨

1 日 時 平成19年2月23日(金)午前10時～午後12時05分

2 場 所 総務省8階 第一特別会議室

3 出席者

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

牛窪 孝、小川 博世、黒川 敏、小池 隆司(代理:若森 和彦)、笹生 剛良、坪川 信、
中川 正雄(座長代理)、羽鳥 光俊(座長)、濱井 龍明、藤原 隆平、堀崎 修宏、
松村 友邦、松本 充司、村尾 憲治(代理:馬淵 孝之)、八嶋 弘幸、山戸 康弘、
弓削 哲也

(2) 総務省

森総合通信基盤局長、江村高度通信網振興課長、片桐高度通信網推進官、臼田課長補佐、
杉浦電波環境課長

4 議事要旨

(1) 次世代ブロードバンド技術の課題とその解決策について

資料3-1について松本構成員、資料3-2について藤原構成員、資料3-3について小池構成員(代理:若森)、資料3-4について山戸構成員より、それぞれ発表が行われ、主に以下について質疑応答がなされた。

・資料3-1の IrDA(赤外線通信)の到達距離についての質問に対し、PAN(Personal Area Network)での使用を想定しているため 1m が目標であるが、100Mbps のスピードでの実験では 30cm が限界である旨の説明がなされた。

・資料3-2の米国で話題のメッシュネットワークについての質問に対し、大きく分けて中継系とアクセス系を混合する方式と分離する方式があり、高速化には分離する方式で対応していると考えられるとの説明がなされた。

・資料3-3の光無線のバックアップ回線の仕組みについての質問に対し、帯域の太い回線が通常使用され、帯域が狭い回線は通常使用せずに、緊急時に切り替わる旨の回答がなされた。また、バックアップ回線を通常使用している構成でも制御が容易なのかとの質問に対し、ネットワークが繋がっているというレベルであれば容易であるが、(帯域の狭いバックアップ回線)あらゆるアプリケーションの動作保証までは難しいとの説明がなされた。

・資料3-4の PLC についてどのような期待をしているのかとの質問に対し、アプローチ回線として屋外での利用を期待しているとの説明がなされた。また、公共ネットワーク構築後のメンテナンス費用についての質問に対し、県と市町村で資金を拠出して対応しているが、通常のメンテナンスや老朽化した設置機器の更新は価格の低下のため大した負担ではないのではないのかとの説明がなされた。また、運用に関しては台風時にのみ不安があるとの説明もなされた。

(2) ブロードバンド技術の導入に向けた利用環境整備の在り方について

・コストに配慮しつつも、将来性のある良い技術について検討できる実証実験を行って欲しいとの要望があった。

(3) その他

・国立公園法によって携帯電話の鉄塔の設置が規制されている問題に対する相談があり、国立公園内の山頂にもテレビの再送信アンテナが設置されている例もあるので、総務省と相談して関係部署と折衝を行うことが重要ではないかとのアドバイスがなされた。

[配布資料]

資料3-1 早稲田大学におけるブロードバンド技術の展開

資料3-2 NECのブロードバンド技術への取り組み

資料3-3 光無線の実用性と課題

資料3-4 大分県のブロードバンドの状況

資料3-5 ブロードバンド技術の導入に向けた利用環境整備の在り方について